

# 緩和ケアにおける疼痛対策の最前線 - 薬物療法と神経ブロックのシナジー -

日 時

2026年 **11月10日** (火)  
18:00 ~ 19:00

形 式

参加費無料 ウェビナー (ZOOM)

## 「がん疼痛に対する神経ブロック ~基礎知識と多職種連携の紹介~」

演 者

**中山 隆弘** 先生  
飯塚病院 ペインクリニック科 部長

資 格

- ・ 麻酔科標榜医(2018年度)
- ・ 日本麻酔科学会 : 認定医(2018年度)、専門医(2021年度)
- ・ 日本緩和医療学会: 専門医・指導医(2024年度)
- ・ 日本ペインクリニック学会: 専門医(2025年度)
- ・ 産業医(2024年度)

■ 本セミナーは**参加無料** **事前登録制**です。

ご視聴を希望される際は、下記リンクあるいは二次元コードよりご登録ください

[https://maruishi-pharm-co-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_IMyhKTW3R\\_WrKUTpVITrNQ](https://maruishi-pharm-co-jp.zoom.us/webinar/register/WN_IMyhKTW3R_WrKUTpVITrNQ)



## 「がん疼痛に対する神経ブロック ～基礎知識と多職種連携の紹介～」

がん疼痛治療において神経ブロックは、痛みの症状緩和に有効なだけでなくQOL向上にも寄与する有力な選択肢である。令和4年度に厚生労働省から「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」が改正され、がん診療連携拠点病院におけるがん疼痛に対する神経ブロックの提供体制の整備が推進されてきた。令和8年度の診療報酬改定では、緩和ケア病棟に入院中の患者に対する神経ブロックの診療報酬が包括から除外され出来高となったことで、今後さらなる施行件数の増加が期待されている。

しかし、緩和ケア病棟という非侵襲的な対応が中心となる病棟では、神経ブロックという侵襲的処置の周術期管理に慣れておらず、施行を躊躇する要因となる可能性がある。

当院では、がん疼痛に対する神経ブロックのうち、内臓神経ブロックのクリニカルパスを作成し運用することで、周術期管理について多職種で連携を取っている。本講演では、がん疼痛に対する神経ブロックの基本的な内容から、起こりうる合併症とその対応といった周術期管理について、多職種連携を中心として解説する。

本講演が、がん疼痛に対する神経ブロックの実施を検討している施設の参考になれば幸いである。

飯塚病院 ペインクリニック科 部長  
中山 隆弘 先生

■ 本セミナーは**参加無料** **事前登録制**です。

ご視聴を希望される際は、下記リンクあるいは二次元コードよりご登録ください

[https://maruishi-pharm-co-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_IMyhKTW3R\\_WrKUTpVlTrNQ](https://maruishi-pharm-co-jp.zoom.us/webinar/register/WN_IMyhKTW3R_WrKUTpVlTrNQ)

